北陸三縣 大津なみ ホーカイぶし

「北陸の大つなみ水害さわぎのそのさまハ 眼もあてられぬ憐れさよ ホーカイ

「怖ろしいきみひ激しい大つなみ のがれるひまもなき有様 ホーカイ

「何よりもその限りハ今度の大つなみ 末代までもはなしぐさ ホーカイ

「来るうちみハ家ハ流れて流れゆく 親も子も立のまゝ ホーカイ

「おどろかし万代未聞の水害ハ 青森岩手宮城縣 ホーカイ

「船に居て助かる漁夫のうん強く さきる微の天命ら ホーカイ

「時節とハあきらめながらも遠き縁を ここに見まの誰もさ ホーカイ

「地震より家もこのの大つなみ のがれる民さぬ衆 ホーカイ

「妻子に離れて叫ぶ子供あれバ 妻や夫とよびまはれ ホーカイ

「無惨なれ六万余人の死傷しやま のこる妻子ハ憐れなり ホーカイ

「お恵みハ政府の慈悲の救助に 万民なんぎを あのすくひ ホーカイ

「四海みな兄弟 あのゆこそ 捨てハおかれぬ 但無養集の 義捐金 ホーカイ

明治廿九年七月三十日印刷
仝　年八月三日発行
画工印刷兼発行者
日本橋区新葭町二番地
楠山橘次郎

明治廿九年六月十五日（陰暦五月五日）怒濤天を捲ひて襲来し其勢ひ猛烈にして実に五千余の家屋海底に沈み三万余の死屍波間に漂へる悲惨の境界に一生を全ふする者も家無く食無く家族無く財産無し負傷者は痛に饑は健康者は饑に迫り其惨状実に酸鼻の至りに在り赤十字社の如きは夙く災地へ医員を出張せしめ能く之を看護し四方の有志家は財を拋ちて能く之を救恤せらるも如何せん被害区域の広きなる未だ三分の潤沢に現はれず同胞相憐の情ある人は一万若を看脱して罹災人民を救済せられんことを切に勧誘する所なり